

摂南大学大学院 薬学研究科 医療薬学専攻（博士課程）

【カリキュラムポリシー】

中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」（平成17年9月5日）において、「医療系大学院における教育・研究指導では、専攻単位で組織的で体系的な教育を提供できるように努力していくことが求められる」との見解が示された。この趣旨を踏まえて本専攻では、「臨床薬学」「健康薬学」「医薬品開発学」の3つの分野で教育課程を構成し、薬物による疾病治療・予防及び医薬品の管理、医薬品の開発を実践できる人材を育成する。本研究科では、ディプロマポリシーに記述する学習アウトカムに到達させるため、「アウトカム基盤型教育」を基本とした順次性のある体系的なカリキュラムを編成している。即ち、1年次のパフォーマンスレベルを「Basic（知識、理解力の涵養）」に、2年次を「Applied（表現力の涵養）」に、3～4年次を「Advanced（行動力の涵養）」に設定している。そのパフォーマンスレベルに到達させるため、特論、演習、特別研究が適切に配置されている。シラバスには、それぞれの構成要素で修得すべきコンピテンスを記述するとともに、GIO、SBOs、方略及び評価方法が明示されている。

（1年次）

主に専攻分野の特論を履修し、パフォーマンスレベル「Basic（知識、理解力の涵養）」に到達させる。即ち、「臨床薬学分野」では、専門薬剤師や認定薬剤師などが具備すべき基礎から最先端に至る知識と技能を修得する。「健康薬学分野」では、環境保健、疾病予防、健康教育・管理、衛生行政、医療制度、社会保障等に関する実践的な知識と技能を修得する。「医薬品開発学分野」では、ヒトに対する最も有効かつ安全な医薬品及びその投与システムなどを開発するために必要な基礎から最先端に至る知識と技能を修得する。また、3専攻とも本学と「教育・研究に関する包括協定」を締結している医療機関で、医療現場での臨床的課題を適切に抽出するための演習「臨床薬学演習、健康薬学演習、医薬品開発学演習」を行う。さらに、研究の実践「医療薬学特別研究」では、文献などによる関連研究の整理、予備実験・予備調査の実施、本実験・本調査の実施及びデータの整理と解析を行った後、中間報告会を開催し、パフォーマンスレベル（Basic）を測定、評価する。

(2年次)

研究の中間成果の問題点の検討、実験・調査の継続実施及びデータの整理と解析を行った後、中間報告会を開催し、パフォーマンスレベル (Applied) を測定、評価する。

(3～4年次)

研究の中間成果の問題点の検討、実験・調査の継続実施及びデータの整理と解析を行った後、解析結果を取りまとめ、学位論文を作成する。続いて、学位論文を発表させ、論文審査及び最終試験を行い、パフォーマンスレベル (Advanced) を測定、評価する。

[薬学部出身者以外のカリキュラムポリシー]

薬学部出身者以外の学生については、主に医薬品開発学の分野の科目を履修させる。そのためには、就学に必要な薬学に関する基本的知識を修得させる必要がある。この目的で、主たる指導教員が学生個々のレベルにあったプログラムを作成し、ゼミ形式で就学させる。現在、該当学生がいないため、詳細な教育プログラムは作成していないが、必要に応じて、今後、作成する予定である。

以 上